□議員名：穐本真一

1　第二次山陽小野田市総合計画後期基本計画の重点施策２「笑顔あふれるまち」における定住人口・交流人口・関係人口の取組について

| | |
|---|---|
| 論点 | 定住人口・交流人口・関係人口それぞれの解釈及び位置づけをどう捉えているか。 |
| 回答 | 定住人口は本市に居住する人、交流人口は観光等で一時的に訪れる人、関係人口は地域と多様に関わる人を指す。三つを段階的に捉えるのではなく、交流人口を入口とし、関係人口を中心に、関わりの進化の結果として定住人口へつなげる考え方を基本とする。 |

| | |
|---|---|
| 論点 | 人口社会減の改善及びＵＪＩターン者増加に向け、どのような新たな移住施策を講じているか。 |
| 回答 | 新たな支援策の創設よりも、お試し滞在費補助や空き家情報の提供、移住後までの継続フォローアップなど現行施策の着実な推進と効果向上を重視。移住支援金やＩＴ人材移住支援金の活用、関係団体と連携した移住フェア等にも取り組み、効果を検証しつつ必要に応じ新施策も検討する。 |

| | |
|---|---|
| 論点 | 定住意欲向上に向け、地区運営協議会や市民活動団体との連携をどう進めるか。 |
| 回答 | 定住意欲向上にはシビックプライドの醸成が不可欠。地区運営協議会・市民活動団体と連携し、地域活動の情報発信を進めるとともに、地域交流センター・市民活動センター・移住支援員の三者連携を強化し、新住民を迎え入れる受皿づくりを進める。 |

| | |
|---|---|
| 論点 | 交流人口拡大に向け、後期基本計画における数値目標をどう設定・管理していくか。 |
| 回答 | 山口県観光客動態調査により観光客数を把握。中期基本計画の目標１２０万人を基礎とし、コロナの影響や海辺の駅そらうみのリニューアル効果（令和９年）を見込み、目標を１２５万人と設定。調査結果を継続的に確認し、必要に応じ施策の見直し・充実につなげる。 |

| | |
|---|---|
| 論点 | スマイルプランナー制度の６００人・団体目標に向けて、登録者の属性及び地域課題解決への貢献の仕組みは。 |
| 回答 | 令和８年５月末時点で個人４０３名、団体８４団体、計４８７。市内７割、市外３割。イベント・マルシェ希望者が最多。登録数の増加に加え、情報発信やコミュニティ・ミートアップ、クラウドファンディング活用等を通じ、登録者同士や地域とのつながりを生み出し、課題解決への貢献につなげる。 |

| | |
|---|---|
| 論点 | 今後の関係人口の創出・拡大に向けた施策の方向性は。 |
| 回答 | 新たな独自施策よりも、スマイルプランナー制度や市外参加者の多いイベント、ふるさと納税の体験型返礼品の充実など既存事業の充実・発展により、関係人口の創出・拡大を図る方針である。 |

| | |
|---|---|
| 論点 | 三つの人口施策の連携について、全体の連携戦略と包括的なビジョンは。 |
| 回答 | 三つを段階的に捉えず、交流人口を入口、関係人口を中心に、関わりの進化の結果として定住人口へつなげる考え方を基本とする。シティセールスで認知度を高め、体験型ふるさと納税やイベント参加等で関係人口化を促し、お試し滞在や移住相談等で定住人口化へつなげる。スマイルプランナー制度等を軸に、市内外の人や団体が継続的につながるプラットフォームの充実を図る。 |